

昭和

写真の1945-1989



第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」(昭和30・40年代パートⅡ)

開催期間:2007年6月30日(土)～8月19日(日)
会場:東京都写真美術館 3階展示室

「昭和」写真の1945-1989展 第2部」は、懐かしいヒーロー・ヒロインが勢ぞろい！

元号が「昭和」から「平成」に代わり、早くも20年近い年月が経っています。戦後、日本はさまざまな変化を遂げました。それは焼け野原からの復興であり、人びとの生活の変化でもあります。そのような様子を、写真家たちはどの様に記録し、表現していったのでしょうか。

『「昭和」写真の1945-1989展』は、2万3000点余におよぶ東京都写真美術館の収蔵作品の中から選りすぐりの約600点によって、4部構成にて、激動の「昭和」をご紹介します。シリーズの第2部は、時代を象徴するヒーロー・ヒロインが登場します。

<展覧会概要>

■第2部■「ヒーロー・ヒロインの時代」(昭和30年、40年代パートI)

開催期間：2007年6月30日(土)～8月19日(日)

スポーツ選手から俳優、歌手、政治家まで、さまざまな煌めくヒーロー・ヒロインたちが活躍した昭和30～40年代。本展では、当館の2万3000点余の収蔵作品より、ポートレート写真というジャンルを通して、エネルギーに満ちあふれたヒーロー・ヒロインの姿を捉えた写真家たちをご紹介します。時代の顔というべきヒーロー・ヒロインの存在は、激動する昭和中期の熱い時代の空気を、ダイレクトに私たちに伝えてくれるでしょう。

◆パート1 スター ー大衆のヒーロー・ヒロイン

(小コーナー) アメリカン・ヒーロー・ヒロイン

◆パート2 タレント ーメディアがつくりだしたヒーロー・ヒロイン

(小コーナー) 『カメラ毎日』から飛び出したヒーロー写真家たち

◆パート3 有名人 ーグラフを飾ったヒーロー・ヒロイン

(小コーナー) 表現の時代へ ークリエイトされたヒーロー・ヒロイン

※次項に各パートの解説があります

<出品作家> (出品点数128点)

秋山庄太郎、石井幸之助、石元泰博、稲村隆正、大竹省二、大東元、小川隆之、木之下晃、木村伊兵衛、操上和美、齋藤康一、佐藤明、沢渡朔、篠山紀信、渋谷龍吉、高梨豊、立木義浩、中村正也、奈良原一高、野上透、林忠彦、早田雄二、藤井秀樹、細江英公、松島進、松本徳彦、三木淳、森山大道、横須賀功光、ウィリアム・ユージン・スミス、ジョージ・S・ジンベル、フィリップ・ハルスマン

<出品資料>

『プレイボーイ』(集英社)、『週刊少年マガジン』(講談社)、『話の特集』(求美)、『太陽』(平凡社)、『サンデー毎日』(毎日新聞社)、『映画ファン』(映画世界社)、『週刊現代』(講談社)、『週刊新潮』(新潮社)、『月刊明星』(集英社)、『月刊平凡』(平凡出版)、『アンアン』(平凡出版) など

(担当：鈴木 佳子)

昭和30年代に入ると、戦後の復興からひと区切りがつき、高度経済成長への新たな局面へ向かうことになる。「大衆」や「情報」「消費」といったものが世の中を動かすようになり、国民の価値観・ライフスタイルはがらりと一変していく。写真はそれらの力を巨大化させる一役を担うことになる。

大量のイメージが、写真というメディアを通して人々の目の前に現れたが、そのなかでも、時代の顔というべきヒーロー、ヒロインの存在は、激動する昭和中期の熱い時代を、ダイレクトに私たちに伝えてくれる。

時代の変化とともに、強烈な個性を持つヒーロー・ヒロインたちは減り、人々の興味はより自分自身にまつわることに向けられ、それが、ある一点へ集中することは今後、益々少なくなっていくことだろう。

昭和30年代から40年代という時代は、ヒーローまたはヒロインを日本人が皆で共有できる最後の時代であったと言えるかもしれない。それは、メディアから受け取る情報が今のようにそれほど複雑ではなく大量でもなかったからだとも考えることもできるが、それだけが理由ではない。明らかに、この時代に現れたヒーロー・ヒロインは強力に輝く星だったのである。際立った人たちが生まれるべくして生まれ、また、当時の日本が彼等を必要とし、受け入れる土壌もあった。必要とする側と、出現した個性とが互いに合い、絶頂期を迎えたのだ。それが、昭和30年代から40年代のこの時期が「ヒーロー・ヒロインの時代」と言われる所以なのである。(鈴木 佳子)

新潮社とんぼの本「昭和の風景」(2007年4月25日)

パート2「ヒーロー・ヒロインの時代」より抜粋

第1部（終了）、第3部（8月～）、第4部（10月～）の概要は下記をごらんください

■第1部■

「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和20年代） →終了しました

開催期間：2007年5月12日（土）～6月24日（日）

1951年のサンフランシスコ講和条約まで日本が占領下に置かれていた時代、日本からの海外に出される輸出品などのラベルには「Occupied Japan」と記されています。この言葉に象徴される時代において戦争の惨禍の後に、新しく都市が形成され、人々の価値観も大きく変化していきました。そして、写真家たちも新しい価値観をもってこの時代を捉えたのです。展示は、＜パート1＞廃墟－焦土からの出発 ＜パート2＞オキュパイド・ジャパン－闇市・P.X.女性 ＜パート3＞解放－エロスとリアル ＜パート4＞復興－「戦後と」という風景、の4つのパートで構成しました。（出品点数125点）

＜出品作家＞

山端庸介、濱谷浩、林重男、林忠彦、大東元、師岡宏次、中村立行、笹本恒子、木村伊兵衛、藺部澄、菊池俊吉、田村茂、福島菊次郎、大竹省二、樋口忠男、東松照明、稲村隆正、真継不二夫、杉山吉良、福田勝治、大辻清司、吉岡専造、三木淳、渡部雄吉ほか
（担当：金子 隆一）

■第3部■

「高度成長期」（昭和30年代、40年代パートII）

開催期間：2007年8月25日（土）～10月14日（日） ※10/1都民の日は無料観覧

昭和30年代は高度成長期時代を迎え、人びとの生活状況や都市の風景が急速に様変わりしていきました。写真家の視点もリアリズム的に場景を捉える写真から、それぞれの作家の持つ主観をうつしだす情景へと変化し、「コンポラ写真」や自分の私生活を表現していく「私写真」など、より内的な世界を表出するような写真が現れてきました。

＜出品予定作家＞

荒木経惟、石元泰博、英伸三、川田喜久治、北井一夫、桑原史成、牛腸茂雄、小原健、藺部澄、高梨豊、田沼武能、田村茂、田村彰英、常盤とよ子、内藤正敏、長野重一、奈良原一高、東松照明、深瀬昌久、細江英公、森山大道、柳沢信ほか
（担当：藤村 里美）

■第4部■

「オイルショックからバブルへ」（昭和50年代以降）

開催期間：2007年10月20日（土）～12月9日（日）

経済の低成長が恒常化し、戦後派世代が「ニューファミリー」と呼ばれ、世代構成の中心を担うようになりました。その中で地域社会だけではなく、家族までもが崩壊し、個人主義が蔓延する中、写真家たちの視線は、自らの内面を見つめ、社会に孕む問題を作品の中に移し込んでいきました。

＜出品予定作家＞

石内都、伊奈英次、大西みつぐ、尾仲浩二、小林のりお、雑賀雄二、柴田敏雄、島尾伸三、須田一政、築地仁、土田ヒロミ、橋口譲二、畠山直哉、宮本隆司、山内道雄、山崎博、渡辺兼人ほか

（担当：藤村 里美）

展覧会公式ガイドブック「昭和の風景」

展覧会開催に合わせ、新潮社「とんぼの本」シリーズから「昭和の風景」が発売中です。展覧会の主要作品を網羅し、その時代背景や写真史的な位置づけを担当学芸員がやさしく解説した、公式ガイドブック写真集です。

好評発売中！＜税込2100円＞ A5版208ページ（図版掲載数 約160点）

<開催概要>

展覧会名称	“昭和”写真の1945－1989 第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」
主 催	東京都、東京都写真美術館
開催期間	2007年6月30日（土）～8月19日（日）
休館日	毎週月曜日（月曜が祝祭日の場合は翌日） <u>※7月23日（月）と10月1日（月・都民の日）は臨時開館します</u>
観覧料	一般500（400）円、学生400（320）円、 中高生・65歳以上250（200）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金。※小学生以下、障害をお持ちの方と その介護者は無料。 ※第3水曜日は、65歳以上無料。
開館時間	10：00～18：00（木・金は20：00） ※入館は閉館の30分前迄

展覧会関連：連続講座『昭和の写真史』開催！

第1回：6月15日（金）「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」→終了しました
リアリズム写真運動と戦後ヌード写真について

（出演）金子隆一（展覧会担当）、飯沢耕太郎（写真評論家）

第2回：8月10日（金）「ヒーロー・ヒロインの時代」（昭和30・40年代パートⅠ）
『カメラ毎日』の時代

（出演）鈴木佳子（展覧会担当）、金子隆一（東京都写真美術館）、山岸享子（写真キュレーター）

第3回：9月14日（金）「高度成長期」（昭和30・40年代 パートⅡ）
『PROVOKE』とその時代

（出演）藤村里美（展覧会担当）、吉増剛三（詩人）

第4回：10月26日（金）「オイルショックからバブルへ」（昭和50年代以降）
※出演者等の詳細は後日発表します

開始時間：18:30～20:00 定員：40名（当日先着順、各回とも18:00から受付開始）

受講料：各回とも無料（※この講座では、新潮社『昭和の風景』を副読本として使用します。

お持ちでない方の受講には、資料代2,100円（税込み）が必要となります。）

会 場：東京都写真美術館 1階アトリエ

<お問い合わせ先>

東京都写真美術館 事業企画課企画係 金子 隆一 r.kaneko@syabi.com（第1部担当）
鈴木 佳子 y.suzuki@syabi.com（第2部担当）
藤村 里美 s.fujimura@syabi.com（第3・4部担当）
事業企画課普及係 久代 明子 a.kushiro@syabi.com（広報担当）
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

<プレス用掲載図版：第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」>

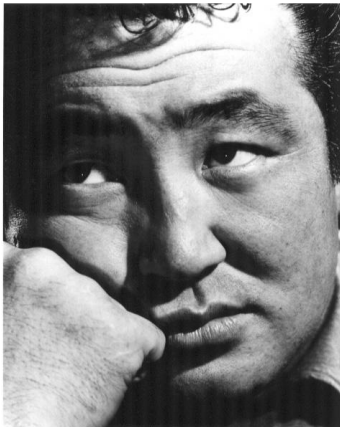
※次項の図版をデータにてご用意しています。

1. 早田雄二 「原節子」昭和20～30年代
2. 松島進 「力道山」昭和26（1951）年
3. 篠山紀信 「誕生」昭和43（1968）年
4. 秋山庄太郎 「吉永小百合」撮影年不詳
5. 繰上和美 「沢田研二」（ポートレート・シリーズ 1970s）より 昭和53（1978）年
6. 藤井秀樹 「丘ひろみ」昭和38（1963）年
7. 高梨豊 「千代田区 丸の内松竹 ビートルズ映画大会」（東京人 1964-65）より
8. 林忠彦 「王貞治」（野球・巨人軍）昭和40年代
9. 齋藤康一 「土光敏夫」昭和49（1974）年
10. 齋藤康一 「松下幸之助」昭和50（1975）年
11. 石元泰博 「ポートレート#215」昭和43（1968）年（※人物は高倉健と藤純子）
12. 松本徳彦 「越路吹雪 ロングリサیتال 日生劇場」昭和46（1971）年11月4日

<掲載に際してのご注意> 1. 図版はトリミングできません。 2. 図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください。 3. 掲載前にゲラを拝見させていただきますようご配慮をお願い申し上げます。 4. お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます。 5. 作品図版は実際の展示と異なる場合があります。 6. 掲載紙をご寄贈いただきますようお願い申し上げます。

第2部「ヒーロー・ヒロインの時代」より プレス用図版

1



2



3

4



5



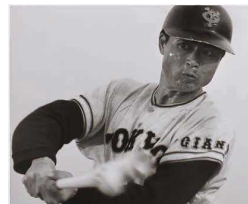
6



7



8



9



10

11



12

